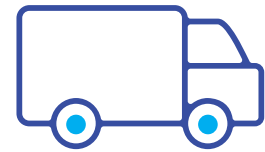


分野横断的な優先事項： 人道支援活動



イエメンの首都、
サヌア郊外の
ベイトブースにある
アル・ナセル校では、
1,600 人以上の
子どもたちが 2 部制で
授業を受けています。

近隣の多くの学校が閉鎖され、紛争で教育がないがしろにされるなか、アル・ナセル校は活気に満ちています。2019年に同校は、生徒向けの新しい取り組みを始めました。世界中の情報にアクセスできる、11台のノートパソコンを備えたコンピューターラボです。

「イエメン人も国際社会の一員であることをここで示すことができるのです。ラボを通じて世界とつながることで、イエメンの助けとなる研究分野を生徒たちが見つけるかもしれません」とユニセフの教育専門官であるアブドゥル・ラフマン・アル・シャルジャビは言います。

ユニセフはイエメンの教育省と協力し、教師の給与の支払い、学校の復旧、水と衛生施設の提供、教育の質の向上にともに取り組んでいます。危機下においても教育を強化することで、より長期的な開発目標を達成するための基礎を築きながら、緊急人道支援を行っています。

2019年のこれらの支援活動の主要な資金パートナーは、米国、国連人道問題調整事務所（UNOCHA）、英国、欧州委員会、ドイツです。



イエメンのアル・ナセル校に設立された新しいコンピューターラボで学ぶ生徒。
5年間にわたる紛争で子どもたちは、重度の急性栄養不良に陥り、劣悪な衛生環境に置かれ、安全な水が不足し、家を追われ、予防可能な病気にかかるなど、多くの危険に見舞われました。教育と、教育が左右する子どもたちの未来も、危機的な状況です。2019年には、教育システムを強化する取り組みによって、25万3,406人の子どもたちが教育を受け、67万6,200人の生徒が基本的な教材を受け取りました。

© UNICEF Yemen/Fuad

2019年もユニセフは、緊急人道支援と開発支援、平和構築を結びつける包括的な支援の重要性を訴えてきました。こうした総合的な取り組みを進めるには、保健医療、教育、子どもの保護、水と衛生といった各分野において、持続可能でレジリエンス（回復力）の高い体制を構築できるパートナーシップが欠かせません。このようなパートナーとの提携が、長期的な開発支援のみならず、緊急人道支援の調整業務や対応を改善することにもつながるからです。

緊急人道支援。今、このニーズがとても大きいのです。

2019年には、世界で45人に1人（約1億6,800万人）が緊急人道支援を必要としていました。そして、1億4,900万人の子どもたちが、紛争に関連する年間死者数が1,000人を超える高強度紛争地域で暮らしていました。

2019年、ユニセフは96カ国で281の緊急事態に対応し、支援を実施しました。

例えば、
2019年には：

40以上のNGO/NPOと協力して、**南スーダン**の子どもたち23万3,000人以上に重度の急性栄養不良の治療を行いました。

バングラデシュでは、難民キャンプや受け入れ国で、27万4,000人の子どもたちが教育を受けられるように支援しました。

コンゴ民主共和国で流行したエボラ出血熱への分野をまたいだ対策の一環として、16万9,784人の子どもたちにメンタルヘルスケアと心理社会的支援を行い、感染リスクのある人々約3,300万人に、開発のためのコミュニケーション（Communication for Development：C4D）の取り組みを実施しました。

主要な成果



3,910万人の人々が**安全な水にアクセス**できるようになりました。

740万人の子どもたちに**緊急時の教育**を提供しました。

生後6か月から15歳までの子どもたち4,310万人に、**はしかの予防接種**を実施。

重度の急性栄養不良の子どもたち410万人を**治療**。



モザンビークのベイラにあるマクルンゴセンターで、コレラ治療に使われているテント前に立つ保健員たち。モザンビークは、2019年に2つのカテゴリー4のサイクロンの影響を受け、北部地域で深刻な洪水が発生し、その後コレラが流行しました。

© UNICEF/UN0321069/De Wet